

【アメリカ】「アジアへのリバランス」に関する上院公聴会

海外立法情報課・新田 紀子

* 2013年4月25日、上院外交委員会は、「アジアへのリバランス II: 安全保障と国防—協力と課題」と題し、国務・国防省関係者、民間シンクタンク関係者を証人とする公聴会を開催した。日本に関連する部分を紹介する。

1 北朝鮮

ベン・カーディン (Ben Cardin) 上院外交委員会東アジア・太平洋問題小委員長 (メリーランド州、民主党) は冒頭発言で、北朝鮮の脅威に関して、より一般的に言えば、その「悪い行い」に報酬を与えることがあってはならない一方で、油断することなく、脅威を深刻にとらえなければならないと述べ、日本及び韓国との緊密な協力の継続の重要性を指摘した。

2 尖閣諸島

カーディン委員長は冒頭発言で、「海洋紛争」について、強制外交 (coercion) や武力の行使を諫止するために、米国は、地域的な規範の確立を支持すべきであること、また、海洋安全保障の関連で、エネルギーや漁業資源について競合する主張を有する国々は、資源の共同管理の可能性を模索すべきであると指摘し、その関連で「日台民間漁業取決め」などを重要な外交上の成果であると評価した。また同議員は、質疑応答の際、米国は、こうした資源に関する協力の合意を紛争 [解決への] 進展をもたらすモデルとして考えたかどうかについて尋ねた。これに対し、ジョセフ・ヤン (Joseph Yun) 東アジア太平洋問題担当国務次官補代行は、1つのモデルではあるが、各国が、自国の主権の下での共同利用や共同探査を望んでいるために問題になると指摘し、全ての国が主権の問題を棚上げして共同探査を行うならばうまくいくとして、タイとマレーシアの例などを説明した。

3 ミサイル防衛

デヴィッド・ヘルヴィー (David Helvey) アジア・太平洋問題担当国防次官補代理代行は、日米同盟深化の努力、また米国の国防態勢の強化の一環としてのミサイル防衛に関し、最近発表された地上配備型XバンドレーダーであるTPY-2レーダーの日本への2基目の配備計画に言及した。

4 在日米軍再編・普天間基地移設

ヘルヴィー次官補代理代行は、発表された在沖縄米海兵隊の統合に関する新しい計画をアジアにおける米国の国防態勢強化の一例として説明した。

5 リバランス

(1) リバランスの軍事的側面

マーコ・ルビオ (Marco Rubio) 上院外交委員会東アジア・太平洋問題小委員会共和党筆頭委員 (フロリダ州) は、ジョン・ケリー (John Kerry) 国務長官が、リバランスについて、軍事力の増強が重要かどうか自体に納得していないと発言し、中国が危惧を持つおそれに言及したこと (注 1)、さらに、同長官が、2013 年 4 月 13 日の訪中時の記者会見で、「脅威がなくなれば、すなわち北朝鮮が非核化するならば、米国が強力な前方防衛態勢を有すべき必然性は存在しないのではないかと」発言したことについて、米国は北朝鮮に関連してだけでなく同盟国に安全保障上の保証を与えるためにより堅固な軍事プレゼンスを持つべきとの米政権の姿勢とはどう一致するのかと尋ねた。ヤン次官補代行は、この地域からは、米国はプレゼンスの軍事的側面と非軍事的側面のバランスをとらなければならないとの声が聞かれると答えた。これに対し、ルビオ議員は、米国の同盟国は、一方で、米国は同盟国に対する安全保障上の約束に対し誠実であると聞かされ、他方で、中国への配慮とバランスさせることになるだろうと聞かされているとして、懸念を表明した。

(2) リバランスに対する評価と課題

ジャニー・デヴィッドソン (Janine Davidson) 新しい米国安全保障センター (Center for a New American Security) 上級研究員、マイケル・グリーン (Michael Green) 戦略国際問題研究所 (CSIS) アジア・日本担当上級副理事長は、オバマ政権のリバランスを全体として、「賢明な」あるいは「正しい」戦略として評価した。

その上で、グリーン副理事長は懸念、課題 (注 2) を挙げ、日本との関係では、米国は、日韓間の歴史問題を解決する意図はないが、日韓両国が共通の作戦手続、インテリジェンス共有などに焦点を当てるよう努める必要があるのではないかと述べた。再編関連では、普天間基地移設計画に関し、問題はあるが、肝心なことは安倍首相が実施を約束していることだと指摘した。また、日韓両国がさらに基地の所有権 (ownership) を持つことが重要であると述べ、施設の共同使用を進めるべきだと示唆した。

注 (インターネット情報は 2013 年 7 月 2 日現在である。)([]は筆者による補足。)

・ 本公聴会の模様<http://www.foreign.senate.gov/hearings/rebalance-to-asia-ii_security-and-defense--cooperation-and-challenges>参照。2013 年 3 月 21 日、上院外交委員会は、「アジアへのリバランス I」と題する公聴会を開催した。

(1) 2013 年 1 月 24 日の国務長官指名公聴会における発言と思われる。「【各国議会】日本関係情報」『外国の立法』2013.4, p.38<http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_8196107_po_02550114.pdf?contentNo=1>参照。

(2) 5 つの懸念・課題として、①東シナ海、南シナ海の海洋紛争に関する中国の意図についてのコンセンサスの欠如、②同盟国の能力構築のための対外軍事有償援助 (FMS)、③同盟関係のネットワーク化、④米軍再編、⑤サイバー、宇宙、核の分野における同盟国との対話を挙げた。